

経営比較分析表（令和5年度決算）

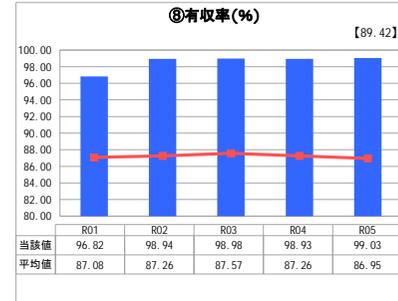
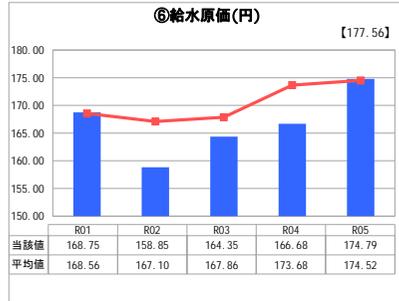
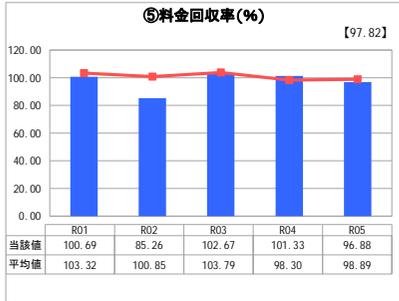
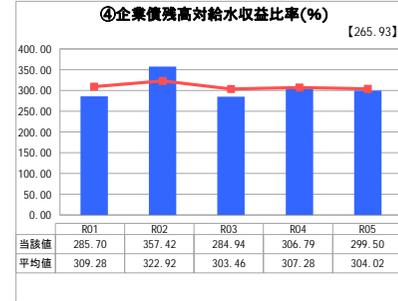
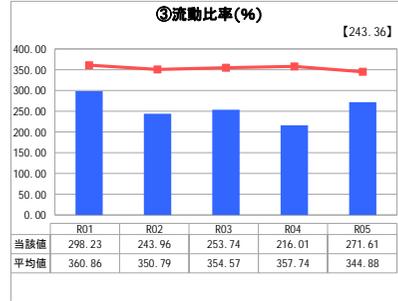
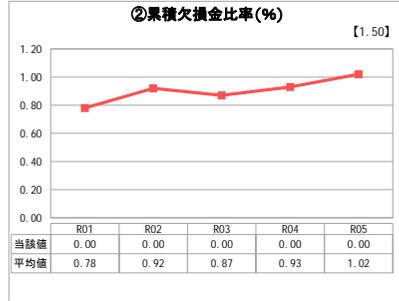
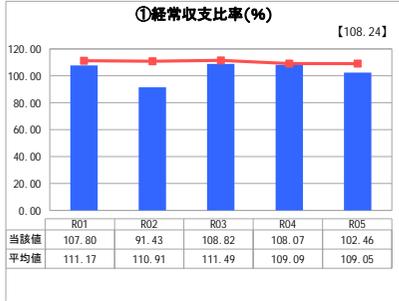
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	60.92	100.00	2,530	

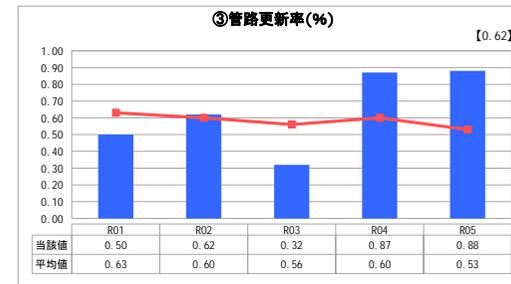
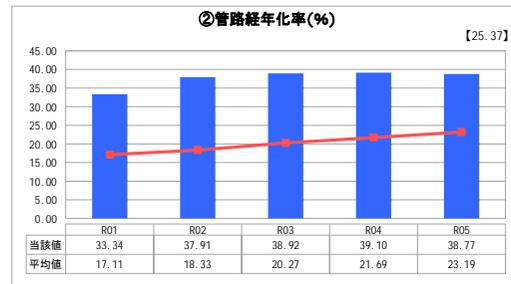
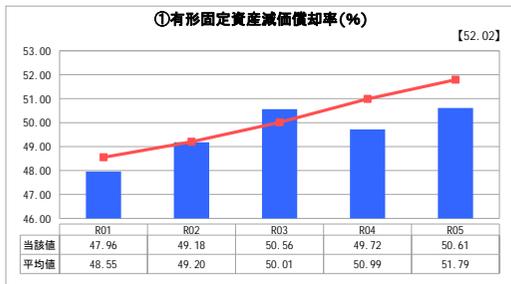
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
94,780	18.47	5,131.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
92,720	11.93	7,772.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①（経常収支比率）は令和2年度に減免を行い、一時的に悪化したものの、その後2年は回復基調であった。しかし令和5年度以降のインフレの昂進に伴い、顕著な費用増、即ち⑥給水原価の上昇が見られ、①は再度低下傾向にある。
また併せて⑤（料金回収率）が100%を下回ったため、収入の向上又は支出の削減のための施策を講じなければならない。
⑦（施設利用率）は低い水準で推移しており、施設の効率化についてはさらに検討の余地があると考えられる。

2. 老朽化の状況について

①（有形固定資産減価償却率）②（管路経年化率）の上昇が頭打ちとなっているが、全体として施設の老朽化が進んでいることは明らかである。
③（有収率）が高いうちに、③（管路更新率）を高水準に維持するなど、着実に施設整備を進める必要がある。

全体総括

人口減により、中長期的には水需要の減少すなわち給水収益の減少が見込まれるため、計画的な機器設備の更新と効率化を追求し、健全な経営の継続に努めていかなければならない。